容所に入れられる事となります。彼は最後までアメリカに帰る事を拒みますが、結局最後の捕虜交換船で米国に送還されてしまいます。

送還後、直ちに彼は軍隊に志願し、情報局に勤務することになりますが、戦争が終わって一番先に日本に上陸するのは、ハヶ岳は高冷地だが日当りが良く、何にもまして広かった。とある入植者は回想しています。

その後の開拓は困難の連続だったようです。クマザサばかりが茂るこの土地に、どんな作物が最も適しているのか知るために、あらゆる種を蒔いて、試行錯誤をくり返したそうです。丸太を組み、移度やむしろで囲っただけの掘立小屋の冬は、震動までがガチガチに凍るほど厳しく、体力のない老人や幼い子が何人も死んでいったそうです。また、入植以来人々の心を最も痛めていたのは、児童の通学の問題でした。峠を越え谷を渡って通う８㎞の道。"移住者の子が来た」「辺地の子」と言われるくやしさに、集団で逃中の山中にカバンを放り出し、一日遊び暮らすといった事件が相次いだということです。

一方、朝日ヶ丘地区の開拓は先のハヶ岳地区より７年後の昭和20年に、食糧増産対策事業として54戸が入植しますが始めなければならなかったのが、原始林を切り開く事でしたが、三百坪位の土地を開墾するのに当時最高の農器具であったツルハシとクワで１ヶ月以上も要したそうです。特に、入植者の中に農業体験者がほとんど居なかった事が、作業をより一層困難なものにしたようです。食生活も、配給のグリンピース、肥料の豆かす、大豆、小豆を主食とした時代が長く続きました。

このような長く困難な開拓の後、牛の導入、さらに民宿経営へと時代は流れてゆきますが、牧歌的でのどかな風景の後にはこのような厳しい歴史があったのです。

清里は クマザサばかりが茂る荒地でした。

清里の代表的な風景の一つである広々とひろがる牧草地も、自然に生まれたものではありません。先人達の大変な開拓の歴史を経て現在の姿に至ったものです。この開拓の歴史は大きく分けて、ハヶ岳地区と朝日ヶ丘地区の二つに分けられます。

ハヶ岳地区の開拓は、昭和13年、くしくもポール・ラッシュ氏が初めて清里を訪れたのと同じ年に、小川内ダムの建設によって故郷を湖底に沈める運命になってしまった丹波山村・小菅村の28戸が県の開拓事業の一環として、清里に入植したのが始まりです。「丹波山は谷間で、日照時間も少なく耕地も狭かった。他の人達は先祖からの土地を離れることに不安や寂しさを感じていたようですが、私は若かったし、ハヶ岳は高冷地だが日当りが良く、何にもまして広かった。とある入植者は回想しています。

"村づくりカタログ"に参加しませんか

２年前の冬でしたか、清里のかたが、私達の事務所にみえました。清里の入口海抜1000メートルのところに大きな看板を立てる計画があるが清里らしいものにするためにどんなものにしたら良いか、という用件でした。

清里から人がみえるということを聞いた時、私の中になにか懐かしい心情が湧いてきたのを今でも憶えています。自分が親近感をいだいていた土地から、人が訪ねて来るというので、なんとなくそぞわしい感じでした。

あんな気持がしたのは、清里のもっている一種の透明な雰囲気を好きだったからだと、今は思っています。子供の頃、親に連れられて行ったキープの建物での斜めに差す陽光の遊んだ感じや、清里から晩秋の真教寺尾根へ歩いた時のすすきの暖かい透明感が、子供の頃から山行をよくした学生の頃まで、共通した清里の雰囲気として好まくく想っていたからだと思っています。

それは、高原の地形や気候のゆえのみでなく、人からきいたボール・ラッシュの理念や実践、あるいは寒冷地での農業の努力の話しも透明な印象を形成したのかもしれません。

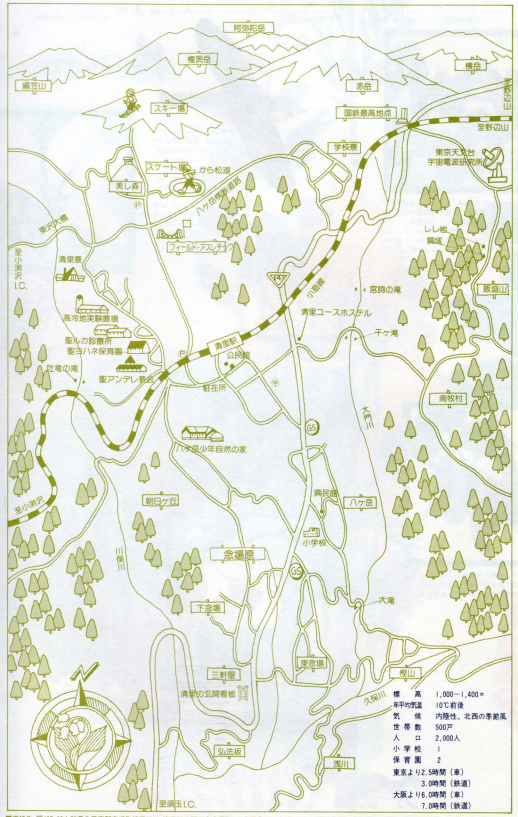
私達は、環境の問題を中心業務としているコンサルタントなのですが、仕事で訪れる日本各地の、えてして水蒸気の多い風土のうちで、清里はかなり明確な特異性をもった場所だと思っています。

清里のこうした特徴は、この高原の自然のうえに、清里の人々によって培われて来たものなのわけですが、同時に清里は、今後も生きつづける中で、変っていくことは明らかなことです。そんな変化がせっかくの清里らしさを無くさないようにに、住み心地の良い清里を育てていくことが大切です。そのための村づくりに、微力ながら参加したいと、この新聞に「村づくりカタログ」を連載しています。実は私の同僚も、学生時代に何回か清里で奉仕労働をして過ごし、何故あとても楽しいことが多かったらしく、清里は彼の青春だった様子です。

そんな、いわば清里のファンである私達が"村づくりカタログ"を作っています。清里に親しみを感じ、こういうことに関心のあるかたの参加を願っています。

一緒に、清里の村づくりに参加しませんか。

文責　かいアソシエイツ 03-355-5710
東京都新宿区大京町32第２福島ビル
気軽に電話を下さい。



編集総先・〒407-05山梨県北巨摩郡高根町清里3545 清里観光振興会広報部 美水晃彦 0551(48)2234、清里観光振興会青年部会副広報部 白倉徳三 0551(48)2118

清里新聞/GENERAL GUIDE

ニューフロンティアプレス〈クローバー〉保存版

牧草の緑が鮮かに甦る頃になると、思い起こされてくる風景がある。ただただ青い草原と白い牧柵、それだけの写真が、私の中の魂の牧歌への憧憬を呼び覚ました。放逸を登りつめ、背後に広がる海原と白い帆前船、苦愛したあの風景にも似ていた。一行きたいな　行きたいな　でもがまんしています。あのハッの腕へ一道迫の言葉を繰り返しつつ幾度地図を指でたどったろう。初めて旅立つ日には、夜汽車を選んだ。ディーゼルカーの固い椅子に背をもたせて迎えた朝は感動的であった。風はモーツァルトの清澄なフルートの旋律を呼びおこし、いつまでもその流れに身をまかせていたかった。幾度目かの朝、いとおしい仲間達と、共にすごした街に別れを告げて、私はこの山里へ帰りてきた。朝夕々の教会の鐘の下で、山羊の暮らしを夢みる。珈琲の馥気の合間を縫って、午後には旅人と語らい、暮れ方には書物の中の先達と語らう。山羊がゆっくりと草を食み穏かな眠りを得るのに、小さな肉は充分すぎたけれど―。いつの日か、私の夢想は華やかな笑い声に破れて、追いつめられた山羊の悲鳴を聴く。それは牧歌とは遠いものであった。しかし恵まれた一つの出会い今真実たらしめるために実面は曇りを拭いてはならない。去歳の約束を違えずに咲く野の花の強さを借りて、私はここに一本の草と生き、やがて朽ちて土に帰るその日まで、ささやかながらも香をふやしていこう。柵を飛び越えて行った山羊が呼び草を求めて帰ってくる日を待ちわびつつ、この耳に牧歌が歌いやまないかぎり。

発行　清里観光振興会広報部・青年部企画広報部

¥100

清里物語

清里の気持ちの良さは、その風景がさわやかで、明るいことに依るのかもしれません。それは清里が海抜1000ｍを越す高原に在る事や、雄大な眺望のひろがるハヶ岳の山すそに在る等の理由によるものでしょう。しかし、このさわやかさや明るさは、清里の自然条件のためだけではなさそうです。清里に生きて来た人々の手によって少しづつ育くまれてきた歴史も、清里独得のさわやかで明るい風景を形づくる上で、大切な役割を果してきたと言えそうです。

清里駅は海抜1280ｍにあります。

中央線小淵沢駅と信越線小諸駅を結ぶ全長78.9㎞の小海線は、海抜1375ｍという日本で最も高い所を通る国鉄路線です。

この小海線の中で、野辺山駅に次いで２番目に高い駅が海抜1280ｍの清里駅です。

この清里駅の歴史は、昭和８年７月27日、軽便鉄道駅として開業に始まります。開業当時の軽便鉄道は、周辺のカラマツを主体とした山林から切り出されてつくられる、木炭やマキなどの森林資源を輸送することを主なしごとをしていました。そのため、清里駅の周辺も、林業にたずさわる人々や行商の人々が利用する旅館や食堂、日常品を扱う店等がポツリポツリとあるだけの淋しい寒村だったようです。

しかし、昭和20年代になると清里駅周辺の様子も変わって来ます。登山客や画家などが清里を訪れ始め、そういったお客様を相手にして土産品を扱かう店が現れはじめるからです。

昭和30年代になると清里は、少し有名になります。雑誌「旅」が、清里を中心に飯盛山を紹介したからです。これをきっかけにして清里の風光は旅行ファンの間でも広く知られはじめる事となり、清里駅周辺もにぎわい始めます。

昭和40年代にな[illegible]清里は[illegible]地として大きく発展することになります。地元では観光振興会が発足し、観光資源の整備や清掃をはじめ、キャラバン隊を組んでの各地でのチラシ作戦が展開されます。又、ノンノやアンアン等の女性雑誌やディスカバー・ジャパンの大キャンペーンなどが高冷地の旅行ブームを生み出し、清里もその波を受ける事になります。

しかしこの時期から、清里駅周辺の風景も大きく変化し始めます。昭和47年には、40年間走り続けたＳＬ、Ｃ56-149が福化、ディーゼル化の促進によって姿を消します。続いて、昭和51年には、増加する観光客数に対応し切れず、木造の小さな清里駅が姿を消し、現在の駅舎が新築されます。この変化は駅周辺にも波及し、周辺の建物は次々と増改築され、急激な変化には驚くばかりです。

清里の歴史を真先に反映してきた駅周辺ですが、強しすぎる変化の中で、駅前を守り、清里をここまで育ててきた先輩達の努力を無駄にしないよう気をつけていかなければなりません。

ポールさんは清里に"希望"という大きな財産を残していきました。

ポール・フレデリック・ラッシュ博士は、1897年、米国、ケンタッキー州に生まれました。人懐っこそうな瞳を輝やかせたこの小柄なアメリカ人は、「人の不幸を黙って見ていられない」という性格の持主だったそうです。

そのポール・ラッシュが初めて日本に来たのは、大正15年の事でした。大正12年の関東大震災の惨状を伝える一人の宣教師の電報が米国聖公会の中で大きな感動を呼び起こし、早速日本復興のためのボランティアがＹＭＣＡを通じて募集されました。それに応募し、来日したのが当時ホテル・マネージメントの勉強中であったポール・ラッシュでした。

昭和13年、彼は初めて清里の地を訪れました。富士山と南アルプス、八ヶ岳、秩父連峰の山々が見渡せる清里に日本聖徒アンデレ同胞会のキャンプ場として清里寮を建てるためです。清里寮という名はキャンプ場がまたがる清里の"清"と大泉の"泉"からとられたものです。又、この年は清里の開拓が始まる年でもありました。

昭和16年12月８日、日米が開戦し、[illegible]

VILLAGE BIRDS AND PLANTS

Published by Kiyosato Tourism Association Edited by Kai Associates Illustrated by Hisako Naiki

南

西

北

辻山 2585　鳳凰三山　北岳 3192　黒檜山 2540　甲斐駒ヶ岳 2966　蓼科 2607　天女山 1539　三ッ頭山 2580　権現岳 2704　旭岳 2672　八ヶ岳連峰　赤岳 2899　横岳 2825　奥しの森 1543　破黄岳 2742

南アルプス連峰

清泉寮の下の牧草地あたりより見た山々です。さらに南や東の方向には富士山、東の方向には秩父連峰を見ることが出来ます。

ノビタキ *Stonechat*
〈夏鳥〉草原上を低く飛ぶ典型的な草原の鳥です。赤茶っぽい胸と、つばさの白い模様が特徴で、ヒューヒューチュウィーチュチュイー等と柔らかな声でさえずります。

キセキレイ *Gray Wagtail*
〈夏鳥〉黄色い腹と灰色の背を持ち、尾を上下に動かして、忙しく足を交互に出して歩き回るのが特徴です。渓流沿に棲み、ティツィチチとより高く鳴いています。

コマドリ *Japanese Robin*
〈夏鳥〉谷川沿いの暗い広葉樹林に棲む可愛いオレンジ色の胸を持つ鳥です。日を上に向け胸を張って、大声でヒンカラカラカラララと歌います。

カッコウ *Cuckoo* 〈夏鳥〉開けた林に棲む灰色の鳥です。カッコウカッコウと特徴のある鳴き声は、夏の風物詩になっています。他の鳥の巣の中に卵を生み入れ、育てさせるズボラな習性を持っています。

アカハラ *Brown Thrush*
〈夏鳥〉林の中の道沿いに低く飛ぶ習性があります。胸から腹後にかけて鮮やかなキツネ色をしており、キョロンキョロンチーと明るい声で鳴います。

オナガ *Azure-winged Magpie*
林に棲みますが、人家近くでも多く見かけます。水色の長い尾を持ち、上下にゆれながらも、ほぼ直線状に飛びます。薬った感じのする大きな声で、ギョーイギョーイキュッキュッと鳴きます。

ウソ *Bullfinch*
針葉樹林で繁殖します。体は、青灰色で、ほっ、のどは赤色です。落ったからも聞こえる、口笛に似た柔らかくふくらんだ声で、フィーフィーと鳴きます。

イワツバメ *House Martin* 〈夏鳥〉海年清泉寮の軒下にも多数押し寄せ、巣を作ります。毛に空中で生活し、俊ぱつな小虫をとります。時速250kmも出すと言われています。

ルリビタキ *Siberian Bluechat* 暗い所を好み、ヒメ目ほどの小鳥。ルルルとかすかでキュロキュロリュッとしゃべるかり声で鳴います。

ミズナラ *Oak* 高さ30m、直径1.5mにもなる大木で、太い枝を四方に伸ばして広がればかる勇姿は、森の王者ともいえる貫禄を分です。材は美しく家具、建築、船舶、洋酒樽などにも使われます。

アカゲラ *Great Spotted Woodpecker*
〈留鳥〉白黒で下腹の赤い鳥です。くちばしでコツコツ木をつつくこの音は、まるはしのいい音ではないが、遠くまで響き渡るという。

カラマツ *Japanese Larch* 日本産の針葉樹の中で唯一つの落葉性の高木です。土質を選ばないため山火事、がけくずれなどの跡の裸地に侵入して生育します。いっせいに芽吹いた新緑のカラマツ林、秋深い頃黄色に色づいたカラマツ林、雪がかった灰色の冬はいかにカラマツ林等々、四季折々の風景が楽しめます。

アオジ *Black-faced Bunting* 黄色い腹に黒斑が有り、緑っぽい頭を持ちます。チュッチンチュルリーティーリューリーと何度もくり返し歌います。ケンカっぱい鳥でもあります。

コブシ *Magnolia* 葉が開くに先だって咲く枝先に1個の白い花は本当に目立つものです。学名の花もて、村里の生活に溶け込んでいる木で、モクレン科の多い年は豊年だと言われる地方もあります。冬期はつぼみの形が亀に似ている事から別名亀の甲といわれます。

メボソムシクイ *Arctic Warbler* 〈夏鳥〉針葉樹林に棲む黄色っぽい鳥です。チョリチョリチョリ、チョリと4拍子で歌います。朝、木の葉の露で水浴する様子が好きです。

シラカバ *Birch* 焼跡や伐採地のような陽光の地によく生育する、高さ20m位に達する落葉高木です。美しい白一樹皮が高原らしいさわやかな風景を演出してくれます。

シャラノキ *Deciduous Camellia* 高さ15mにもなる落葉高木です。すべすべした灰色の樹皮を持つためサルスベリと呼ぶ地方も多います。6～7月ツバキに似た白い花を咲かせますが、純白の花が緑の中で目立ちやすいものです。庭木としても良く茶庭や寺院等で見かけて植えられます。

ヒメヒオウギ *Oliveback Pipit* 緑がかった背を持ち、ピリリリリピピと、ブレイブブレイブとピーリリピピ歌い方をします。尾を上下に、足を交互に出してよく歩くので、よく分かります。

レンゲツツジ *Rhododendron* 日当たりの良い高原等にあるミ～4mの落葉低木です。初夏の頃美しい赤紫色の花を咲かせます。花弁の内側に斑点が有り、食べないと言われ、牧場等では家畜が食べない植物の一つです。

ワレモコウ *Burnet-Blood Wort* 夏から秋にかけて高原の草地や陽当りすぞの原などに、紅紫色の穂状の花らしくない花をつけます。根にいくらかスイカのようなニオイがあるため、子ども達は薬を手のひらにこすりつけて、ニオイをかいで遊んだりします。

スズラン *Lily of the Valley* 4～5月頃、高原や庭野に香りの良い可憐なつりがね形の花をつける多年草です。一名、君影草と呼ばれたその可憐さ故に多くの人々に親しまれていますが、有毒であるため、牛や馬にとってはやっかいな存在です。

ホタルブクロ *Bellflower* 山野の木陰や湿っぽい所に見られ高さ30cm～80cmの多年草です。つり鐘型の白あるいは淡紫色の花は初夏に咲きます。昔、子供達はこの花の中にホタルを入れて遊んだようです。

シモツケソウ *Meadowsweet* 6～8月頃、谷川に近い開けた草地等に小さなピンクの花をたくさん咲かせます。その群生の見事さに高原の女王と呼ばれる事もあります。

サラサドウダン 5～6月にかけて紅色の釣り鐘型の花を咲かせるアウリンツツジと呼ばれる落葉低木です。花だけでなく、秋の紅葉も見逃す事は出来ません。

スイムシソウ *Scabious* 湿地が多い高原でムシの声が聞かれる頃、美しい紫色のマメ科の多年草です。高さ1m位になります。長い枝の先に1つずつ花が、秋空の下で咲いている様子は女郎花のあるものです。別名、女郎花とも呼ばれます。

アキノキリンソウ *Golden Rod* 日当りの良い乾いた所に多く見られます。別名ウマ毒といったように、分類的に悪い草のように思われますが、高さ20cm前後の小さな草です。8～10月頃、直径10～14mmの黄色い花をつけます。

ハルリンドウ *Gentian* 湿地を好む多年草で、3～5月に澄き通るような青紫色の花を咲かせます。花は開になると開き夜は閉じる習性を持っています。苦味があって健胃剤としても知られています。

アザミ *Common Thistle* 砂礫地に群生し、夏から秋にかけて紅紫色の花を咲かせます。平安時代には美しさに引かれていたようですが、後世になると、なり、香りは[illegible]

Enkianthus campanulatus　*Acer Mono Maxim*　*Quercus mongolica*　*Sorbus americana*　*Larix Kaenpferi*　*Betula platyphylla*　*Stewartia Pseudo—camellia*　*Magnolia kobus DC*　*Rhododenron japonicum*